

東日本大震災後の ST 支援について

東日本大震災から半年が経過しましたが、復興には、まだまだ時間が掛かると思われます。被災地への支援は縮小傾向となりつつありますが、実際は年単位で支援していかなければならない状況です。また、被災地のために何か出来ないかと、様々な情報収集を行なってきた方がおられると思いますが、STの専門性が活かせる支援情報については、ほとんどなかったと思われます。

今回、私は宮城県気仙沼市において、STの専門性を活かした支援活動を行ってきました。気仙沼市は震災後に誤嚥性肺炎を発症する方が増加していることに加え、高齢化率30%と摂食嚥下の評価や指導のニーズが高い状況です。また、避難所や仮設住宅でコミュニケーション不足となっている失語症の方もおられるそうですが、人口7万人の町にSTが3名しかいないため、STを必要としている方々への支援が圧倒的に不足しています。震災直後より、気仙沼市では「気仙沼巡回療養支援隊（JRS）」が在宅医療を支える目的で活動しており、そこから派生した「口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポート」がコミュニケーション障害や摂食嚥下障害の方々へのサポートを行ってきました。そのサポートは、山梨市立牧丘病院院長の古屋聡先生が中心となって行なわれており、月2回（1回2日程度）、山梨・兵庫・大阪・東京・沖縄などの管理栄養士や歯科衛生士またはSTが現在まで関わってきました。当院からは私が代表として、8/22～8/23と9/5～9/6に「口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポート」への協力を行ないました。

活動内容は、おもにコミュニケーション障害や摂食嚥下障害の評価・指導を、病院や施設または在宅の方に対して行ない、私は4日間で29名（再評価含む）の方への評価・指導を行ないました（指導はおもに家族や施設スタッフへ）。9/6の夜には地元の歯科医師・歯科衛生士・看護師さんへ摂食嚥下に関するミニ講演を行ないました（写真①）。今後の当院からの支援体制としましては、毎月初旬にST1名の派遣を平成24年3月まで継続することが決定しています（3月以降は検討中）。しかし、当院がサポートとして関われない日程があるため、当院以外の方々への協力を求めています。もし、実際に被災地への支援を希望される方がおりましたら、札幌西円山病院の櫻井まで御一報いただけたらと思います。その他の詳細な事柄についても、随時お答えします。参考までに、私が思う「被災地支援に携わる方の心構え」は以下の通りです。

○被災地支援に携わる方の心構え

- ・ライフラインは自分で用意する。
宿泊先は多くありませんが、早めに予約することで確保出来ます。食料はコンビニなどが復旧しているため、現地調達可能です。気仙沼での移動手段は、マイカーもしくはレンタカーを手配するのが望ましいと思います。
- ・経験年数に制限はないと思われそうですが、訪問先では、限られた時間で評価し、今後の方向性を決めていかなければならない状況が多いです。STの専門性だけでなく、初対面のスタッフとの信頼関係を築けるコミュニケーション能力や臨機応変さが重要と感じました。*当院では、8年目と6年目のSTが交代で関わります。
- ・最も重要なのは、被災者の役に立ちたいという気持ちです。

気仙沼市だけでなく、近隣の陸前高田市や南三陸町の被災地を実際に目の当たりにしましたが、映像で見る以上に凄まじく、言葉になりませんでした（写真②③④⑤⑥）。被災された方がどれほど怖い思いをされたか、また、亡くなられた方や行方不明の方のことを考えると、本当に胸が詰まります。今後もコミュニケーション障害や摂食嚥下障害への長期的な支援が必要ですが、それを誰がどこまでフォローしていけるのかが重要な課題になると思います。遠方からのため、十分な支援は難しいと思われそうですが、当院からは今後も可能な限りの支援を行なっていきます。現地への直接的な支援だけが全てではありませんが、可能ならば、北海道から被災地への温かな支援を是非お願いします。

*この支援は全て自己負担となりますが、東日本大震災摂食・嚥下障害支援チームFKKY（仮称）へ支援金の助成を行なうことが出来ます（一回につき2万円）。しかし、この支援金は個人で休みと金銭をかけて現地支援する方々のためのものですので、当院のように法人で支援する場合は対象外となりますことを御了承願います。

医療法人溪仁会 札幌西円山病院
リハビリテーション部言語療法科 櫻井貴之
〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
TEL ; (011) 642-4121 (内線630) FAX ; (011) 642-4291
MAIL ; sakurai-ta@kejinkai.or.jp



写真①；9/6のミニ講演会に参加された方々
(歯科医師・歯科衛生士・看護師)



写真②；鉄筋の建物の上にある車



写真③；瓦礫の山



写真④；気仙沼湾から200mほど内陸に流された船
(この船はモニュメントになる)



写真⑤；海沿いを走る鉄道気仙沼線の橋が崩落



写真⑥；地盤沈下のため、満潮時には海水が浸入
(唐桑半島のとある港)